

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水産町132番地1
自己評価作成日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個人個人に合わせ本人が出来ることは、積極的に取り組んで支援することにより自信や満足感が持てるようにしています。
 ・利用者同士の関係を大事にし、利用者同士が協力しながら生活できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に作成した「家庭的な雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかで豊かな暮らしを支援します。」という理念を掲げ、管理者と職員が協力し合って日々のケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの声に耳を傾け、食事や散歩、行事等、利用者が意欲的にのびのびと生活することができるよう環境を整えている。日常の健康チェックや緊急時の対応等、医療連携体制を整備し利用者や家族が安心して生活できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ストロベリーハウス

記入者(管理者)

氏名 山本 明美

評価完了日 H23 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな暮らしを支援します。」と理念をかかげており、地域との関わりを持った生活が出来るような支援を目指している。	
			(外部評価) 理念は開設時に話し合い作成し継続している。月1回の職員会やケア会議で話し合い確認を行っている。新任職員には入職時に説明し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩途中や出勤時に会った時など挨拶や立ち話をしたりして、関心を持って頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に地域の方に参加してもらったり、自治会に加入し地区の福祉の集いや祭り等、地域の行事に参加して交流を深めている。散歩途中であいさつを交わしたり、歌や踊りのボランティアに来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、口腔ケアや認知症の方の具体的な接し方など理解を深めている。研修報告などをし、話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議により利用者の生活を実際にみて頂き、意見交換をしてサービスの向上に生かしている。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回、利用者や家族、地域の方、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催している。防災訓練や口腔ケア、認知症の方の具体的な接し方等の議題をあげ、積極的に意見交換を行っている。職員も参加して事業所の状況を報告したり、そこで出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎回運営推進会議において、利用者の生活ぶりなど具体的にみて頂いたり、相談に乗って頂いたりして協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者に運営推進会議へ参加してもらっている。意見交換を行ったり、研修や会議の情報をもらう等、協力関係が構築されている。また、地域包括支援センターと連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員が身体拘束の内容を理解し、話し合いを持ちつつ確認をしている。玄関の施錠などは、日中出入りが自由にできるよう施錠せず、見守り等を徹底している。	
			(外部評価) 事業所で勉強会を行い全職員が理解し確認し合っている。ベッドから転落する危険のある利用者には、床に布団を敷く等、身体拘束をしないようケア会議で話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どのような状況や場合において虐待になるのか、常に話し合い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている方もおられるので、必要な方には活用してもらえるよう話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者さんや家族の方が不安に思われることのないよう十分に説明して頂いた上で納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口を設けており、ご家族からの意見や不満を伺う機会を設けている。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置している。家族の面会時に状況報告や要望等を積極的に聞くようにしている。遠方の方には行事案内や広報誌を郵送し、電話で状況報告や要望を聞くように努めているが意見を出される事は少ない。	具体的な意見を出してもらうためには、運営推進会議や、季節毎の事業所の行事や地域の行事等に参加してもらい、事業所の取組みを見てもらうことが必要である。気軽に参加できる雰囲気や機会をつくり、より多くの意見や要望が出されるよう今後の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日頃より職員の意見や提案事項などに耳を傾け、反映していけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 月1回法人全体の職員会と事業所ごとのケア会議を行っている。管理者と職員は話しやすい関係ができており、支援内容や業務内容について、全職員で話し合い決定するようにしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員ひとりひとりがやりがいを持って働けるように日頃から話し合いの場を持ち生かしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 今年より法人内の研修が開催されており、積極的に参加をしていただき、理解を深めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム交流会や相互研修などお互いのホームの特徴や意見や提案をしてサービスの向上に生かしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前より本人や家族を交えて話し合いをし、意見や希望などを聞きそれに答えるように努力している。またそれを介護計画に生かすようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方との話し合いをし、要望や意見を聞きそれに答えられるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員間で話し合い、本人・家族の方が必要としているケアプラン・及びサービスに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員も一緒になりレクリエーションに参加したり、一緒に買い物へ出かけたり関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事や病院受診など協力して頂ける事には、協力していただき、面会時には生活面などの状況を話し合い協力して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来所された時には、和やかな時間を過ごしていただけるように努めている。馴染みの近隣の方の来所も多い。 (外部評価) 家族等の面会時はゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。また、知人に手紙を出したり、散歩や買い物で顔見知りになった方とあいさつを交わす等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に洗濯たたみをしたり、仲の良い利用者同士でレクリエーションを楽しんだりされている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的に電話などで話し合ったり、相談を受けたりしながら、近況を話し合っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活をみながら、職員が本人さんの思いや希望を汲み取り、意向に努めている。また、困難なケースは、本人本位に検討している。 (外部評価) 利用者との日常会話の中から思いや意向を把握し、ケアに取り入れるようにしている。聞き取りが困難な場合は、入居前の様子や情報を関係者から聞いたり、日々の生活の中からくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴や生活環境の把握に努めている。また、家族の方にも耳をかたむけ、その人らしさの理解に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表等で身体状況や生活状況などを適時把握している。また、一人一人の出来ることを活かして生活できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月ケア会議を行い、職員一人一人の意見交換や相談をしながら、作成している。また、家族のご要望も取り入れ確認していただいている。 (外部評価) 介護計画は担当制にしている。毎日、計画に沿ったケアを実施し支援経過にわかりやすく記録している。担当者は日常の情報を集約し毎月のケア会議で話し合い、3か月に1回見直しを行っている。家族の要望等は面会時や電話で事前に聞き取り計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、会話の内容等を個別に記入し、ケアを実践し、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人さんや家族さんの要望を聞き、同事業所との連携をはかり支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の美容師にカットを依頼しており、楽しみにしておられる方もおかれる。また夕涼み会・納涼祭等への参加をしたり、防災訓練などを地域の消防署との連携もしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月1回の往診と利用者の体調により受診していただき、良好な関係作りに努めている。	
			(外部評価) 月に1回、協力医の訪問診察があり、さらに週2回、訪問看護が健康チェックや状態観察を行い日々の健康管理が行われている。協力医以外の受診は家族が付き添い、家族の都合が悪い時は職員が同行している。また歯科の往診もあり適切な医療を受ける事ができ安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 週2回訪問看護を依頼しており、状態の変化や気になる点は伝え相談している。緊急時には24時間対応している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族と密に連絡を取り合ったり、病院関係者とも協力し合っている。また、退院時には看護サマリーの指示に従い支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人さんの意思を尊重し、話し合いを続けながら医師との連会を取り方針を共有している。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成しており、入居時に利用者や家族に説明している。運営推進会議で議題として取り上げ意見をもらったり、勉強会を行なう等している。協力医や訪問看護との医療連携ができており、利用者や家族の要望に対応できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応については、職員間で話し合い、かかりつけ医師・看護師への連絡体制を把握している。応急手当の研修に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練を行っている。また、運営推進会議の場において災害対策の議題で災害についての協力体制を密にしている。 (外部評価) 年2回、昼間、夜間を想定して避難訓練を実施している。消防署より2階からの避難方法の指導があり、職員間で再確認を行いより安全な避難方法を検討している。また、地域の防災班に入り訓練に参加したり、地域のグループホームの勉強会で備蓄等の協力体制を確認している。	備蓄や事業所ができること等、より具体的な対策の検討や整備を望みたい。また、2階からの避難方法を検討し、自主的な訓練を行う等、さらなる取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ・入浴時などプライバシーの配慮に気を配っている。ことば遣いなどの対応や仕草などに十分に気を付けている。 (外部評価) 居室やトイレに入る時は必ず声をかける、洗濯物を間違えないように気をつける等、会議で話し合い一人ひとりを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員優先の考えではなく、時間を有しても「何をどうしたいのか？」という本人の意思を尊重し、意思表示をしていただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の利用者さんのペースに合わせた過ごし方に配慮している。またそれに沿った支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や外出時には、一緒に洋服を選んでいる。散髪は、希望に沿ったヘアスタイルを聞き概ね要望に沿っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と利用者が一緒に台拭きを行ったり、後片付けも無理を感じない方のみ一緒に洗いものを手伝っていただいている。 (外部評価) 利用者の希望を聞き職員が一週間毎に交替で献立を立てている。毎日、利用者と近くのスーパーに買い物に行き食材やおやつを購入している。野菜の下準備や下膳の手伝いをしてもらう等、利用者の意欲の向上や楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの食事量・水分摂取量をこまめにチェックし、摂取されない場合には声掛けや介助を行っている。場合によって本人の好むものを変えるなど柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きを実施している。うがいが困難な方には、口腔内の確認・水分摂取・口腔ケアシートで拭き取りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表にて排泄のパターンを概ね把握している。また、便秘がちな方には、腹部マッサージや水分補給などを行っている。また、適度な運動（歩行訓練や散歩）などを実施している。	
			(外部評価) できるだけトイレで排泄できるように時間を見ながらトイレ誘導を行っている。排便も一人ひとりの状態に合わせ、腹部マッサージ等を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) よく噛んで食べて頂くように声掛けを行っている。また、腹部マッサージを個々に応じて行っている。ヨーグルトなど便秘予防に有効な食品をおやつ時などに提供している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯に捉われずに入浴を行っている。順番は希望される方がいるため、職員と話し合い組み合わせている。	
			(外部評価) 毎日入りたい方や拒否される方等、利用者の希望に応じながら無理のないように入ってもらっている。シャンプー等は好みに合わせて個別に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の身体状況に応じて休息して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの服薬を管理しており、薬の目的や副作用・用法等に職員間で理解している。また、服薬チェックも行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯干しや、たたみ等お手伝いをしていただいている。利用者同士でレクリエーションやゲームなどで余暇を楽しんでいただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日などは、戸外へドライブに出かけたり行事計画で普段行けない場所への支援も行っている。また、利用者の意見も聞き外出計画に反映している。	
			(外部評価) 毎日近くのスーパーに買い物に出かけたり、天候に合わせて事業所の周りを散歩している。また、季節に合わせて苺狩りやぶどう狩りに行ったり、菊花展やバラ公園、コスモス畑を見に行く等、楽しみが持てるように外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理が出来る利用者の方に関しては、本位に任せている。お金に関して理解が乏しい方に関しては、こちらで一度お預かりしており、なるべく本人の意向に添えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や知人などに手紙を出したりしている。年賀状などは、職員と字を書いたりしてやり取りが出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 浴室やトイレなどの共有スペースには、分かりやすいように表札を付けている。 また、利用者の方が見える場所に季節感を出した飾り付けなどを行っている。	
			(外部評価) テーブルやソファの配置を考慮し、利用者が集まってゆっくりできる環境や雰囲気をつくっている。空気清浄器を設置し、共用空間の環境にも配慮している。壁には行事の写真や季節を感じられる飾りつけがあり居心地良く穏やかに過ごす事ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の方は、個室でゆっくり過ごされている。リビングダイニングにも利用者さんが行けるようにしている。共有スペースには、くつろげれるように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族と相談し、ご本人の使い慣れたものを持参していただくようにしている。また、必要と感じたものに関しては、ご家族と相談して持参していただいている。	
			(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。好みの布団や使い慣れた物を自由に持ち込み、好みのポスターを貼ったり、家族の写真を飾る等、一人ひとりが落ち着いて過ごすことができるよう環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 職員間で話し合い、個々の状態を把握している。また危険なものを排除し、広々としたスペースを確保できるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水産町132番地1
自己評価作成日	平成23年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々の生活において、その人らしく自立して生活ができるように支援している。
 ・本人の思いを汲み取り実現できるように支援します。
 ・運営推進会議において地域の方と勉強会などを開き理解を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に作成した「家庭的な雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかで豊かな暮らしを支援します。」という理念を掲げ、管理者と職員が協力し合って日々のケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの声に耳を傾け、食事や散歩、行事等、利用者が意欲的にのびのびと生活することができるよう環境を整えている。日常の健康チェックや緊急時の対応等、医療連携体制を整備し利用者や家族が安心して生活できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ブルースカイ

記入者(管理者)

氏名 山本 明美

評価完了日 H23 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな暮らしを支援します」と理念のもとに明るくて家庭的な雰囲気を大切に、町内行事などの参加を心がけている。</p> <p>(外部評価) 理念は開設時に話し合い作成し継続している。月1回の職員会やケア会議で話し合い確認を行っている。新任職員には入職時に説明し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議などを通じて意見の交換をしたり、地域の行事（地域の防災訓練や秋祭り）など参加をし、交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に地域の方に参加してもらったり、自治会に加入し地区の福祉の集いや祭り等、地域の行事に参加して交流を深めている。散歩途中であいさつを交わしたり、歌や踊りのボランティアに来てもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議において、認知症の理解や関わり方などについてのアドバイスや意見交換をし、地域で理解を深めて頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、行事内容や利用者様の状況などを具体的にお話し、アドバイスを頂きながら個々の支援内容に生かしている。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回、利用者や家族、地域の方、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催している。防災訓練や口腔ケア、認知症の方の具体的な接し方等の議題をあげ、積極的に意見交換を行っている。職員も参加して事業所の状況を報告したり、そこで出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 現状では、運営推進会議において連絡を密にしているが、取組や支援についてのアドバイスをその都度頂いており、協力関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者に運営推進会議へ参加してもらっている。意見交換を行ったり、研修や会議の情報をもらう等、協力関係が構築されている。また、地域包括支援センターと連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束にあたる事項について勉強会を通じて理解を深め、身体的にも精神的にも拘束をしないケアを実践している。	
			(外部評価) 事業所で勉強会を行い全職員が理解し確認し合っている。ベッドから転落する危険のある利用者には、床に布団を敷く等、身体拘束をしないようケア会議で話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会において事業所全体で学ぶ機会をもっている。具体的な拘束などのアドバイスを頂いている。事業所内においても入浴時の身体チェックを徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 後見人の方との連携をしている。また、今後後見人の必要性がある方について話し合う場や勉強会をする機会を持っていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や解約についての際には、ご家族が不安にならないように説明を行い納得の上、了承していただき署名を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付相談窓口を設置しており、自由に意見や質問事項など幅広く聞けるようにしている。また、ミーティングなどでその件に関して話し合う場を設けている。 (外部評価) 玄関に意見箱を設置している。家族の面会時に状況報告や要望等を積極的に聞くようにしている。遠方の方には行事案内や広報誌を郵送し、電話で状況報告や要望を聞くように努めているが意見を出される事は少ない。	具体的な意見を出してもらうためには、運営推進会議や、季節毎の事業所の行事や地域の行事等に参加してもらい、事業所の取組みを見てもらうことが必要である。気軽に参加できる雰囲気や機会をつくり、より多くの意見や要望が出されるよう今後の取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回会議を設けて職員の意見を聞く場がある。また、それ以外でもそれぞれ必要な時に代表者や管理者が意見や提案を聞いている。</p> <p>(外部評価) 月1回法人全体の職員会と事業所ごとのケア会議を行っている。管理者と職員は話しやすい関係ができており、支援内容や業務内容について、全職員で話し合い決定するようにしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員ひとりひとりがやりがいを持って職務に当たれるように話し合いの場を持ったり意見を交換し合っているまた、個々の努力を把握してその都度アドバイスなど行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内において職員研修を実施しており、個々の職員がスキルアップしていけるように積極的に参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 包括支援センター主催の他事業所との交流や相互研修を通じての情報交換などをし、サービスの向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居時にご本人とご家族より支援方法やご要望に答えられるようケアプランに出来るだけ反映したり、生活していく上で信頼関係を築いていけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族から「こうしてほしい」という事項について要望に答えていけるよう関係作りに努めている。また不安なことにも耳を傾けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の話し合いにおいてご本人とご家族と合意した必要としている支援をするようにしている。また、必要に応じて順次対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と共に、お手伝いをしたり工作をしたり、共に語り合い支え合う関係づくりが出来ている。また、ご自分で出来ることを積極的に生かしていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と定期的にご連絡をしたり、また来所時には近況報告をしたりなど関係作りに努めている。介助をお手伝いされるご家族様もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 全員が叶えられるわけではないが、旧友の方々の訪問で懐かしんだりご家族さんと共に連れだって馴染みの人や場所に行き事もある。 (外部評価) 家族等の面会時はゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。また、知人に手紙を出したり、散歩や買い物で顔見知りになった方とあいさつを交わす等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室で孤立することのないよう、ホールにみんなが集まり会話が出来るよう環境作りに努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 定期的にご連絡させていただき、必要に応じてアドバイスや支援などに努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 共同生活の中で一人一人の思いや希望に少しずつでも近づけていけるよう職員間で話し合いご本人に良い方向にいけるよう努めています。 (外部評価) 利用者との日常会話の中から思いや意向を把握し、ケアに取り入れるようにしている。聞き取りが困難な場合は、入居前の様子や情報を関係者から聞いたり、日々の生活の中からくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族からのお話やお一人ひとりの対話の中でこれまでの暮らし方・生活環境などを理解把握し、生活環境の向上に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録などで情報を共有し、注意点などがあればアドバイスを受けながらケアの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月定期的にケアカンファレンスを行い、一人ひとりの現状等に即した介護計画を作成し、3か月ごとに見直しをしながらより良く生活できるよう努めている。	
			(外部評価) 介護計画は担当制にしている。毎日、計画に沿ったケアを実施し支援経過にわかりやすく記録している。担当者は日常の情報を集約し毎月のケア会議で話し合い、3か月に1回見直しを行っている。家族の要望等は面会時や電話で事前に聞き取り計画に反映している。	計画に沿った実施記録と包括的な評価は行われているため、今後は目標ごとの記録や達成状況の確認、それに連動した細かな評価を行うよう望みたい。そして、その評価をもとに、利用者の状況に応じた介護計画が作成される事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録や申し送りなどから、職員間で情報を共有しケアや介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 既存のサービスに捉われないよう、職員間で話し合い、その時々ニーズに対応させて頂けるよう柔軟な支援やサービスに努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域包括センターのアドバイスや地区のお祭りごとなど地域資源を生かして安全な生活が送れるように支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人と家族の納得の上、かかりつけ医との協力関係 が築けるように支援している。また、家族やご本人 の希望を大切にし、適切な医療が受けられるよう支援 している。	
			(外部評価) 月に1回、協力医の訪問診察があり、さらに週2回、 訪問看護が健康チェックや状態観察を行い日々の健康 管理が行われている。協力医以外の受診は家族が付き 添い、家族の都合が悪い時は職員が同行している。ま た歯科の往診もあり適切な医療を受ける事ができ安心 できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週2回の訪問看護時には、日常の健康管理や急変時の 対応の相談を行い、協同して支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院とは、入院時の状態把握と情報をお伝えして いる退院後は、サマリーや看護師との情報交換にてご本 人の状態にあった生活支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取り指針に添い、事業所が出来ることを話し合い 家族にも納得して頂くようにしている。また、医師や 看護師との協力関係を密にするよう働きかけている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成しており、入居時に利用者 や家族に説明している。運営推進会議で議題として取 り上げ意見をもらったり、勉強会を行なう等してい る。協力医や訪問看護との医療連携ができており、利 用者や家族の要望に対応できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が、研修を受けているわけではないが、積極的に応急手当方法などの研修に参加し、その方法について話し合いを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間と昼夜を想定した消防訓練を実施し、消防署との連携を共にしアドバイスなど頂いている。また、区長の指導のもと地域の防災計画にも組み込まれている。 (外部評価) 年2回、昼間、夜間を想定して避難訓練を実施している。消防署より2階からの避難方法の指導があり、職員間で再確認を行いより安全な避難方法を検討している。また、地域の防災班に入り訓練に参加したり、地域のグループホームの勉強会で備蓄等の協力体制を確認している。	備蓄や事業所ができること等、より具体的な対策の検討や整備を望みたい。また、2階からの避難方法を検討し、自主的な訓練を行う等、さらなる取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けやプライバシーに関する事には、十分に気を配っている。また、一人一人の意見や意向を尊重している。 (外部評価) 居室やトイレに入る時は必ず声をかける、洗濯物を間違えないように気をつける等、会議で話し合い一人ひとりを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の業務の中で話を聞く機会を作り、利用者の希望が実現できるよう、励ましたり自己決定が出来るような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個人のペースには、十分に配慮している。ご自分の希望には、なるべく希望に添うように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個人の化粧や衣類の希望など、その人の個性にあうよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや配膳のお手伝いなど、出来る範囲で協力を頂いている。個人の持てる力を生かしながら支援に努めている。 (外部評価) 利用者の希望を聞き職員が一週間毎に交替で献立を立てている。毎日、利用者と近くのスーパーに買い物に行き食材やおやつを購入している。野菜の下準備や下膳の手伝いをしてもらう等、利用者の意欲の向上や楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の水分摂取量をチェックし、個人の状態にあった支援を行っている。また、ひとりひとりの習慣を大事にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアでは、その人の出来ることは見守りや出来ないところの介助を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人個人に合わせてのトイレ誘導の声掛けや介助をし排泄支援をしていただいている。パットなどへの失敗を少なくなるよう心掛けている。	
			(外部評価) できるだけトイレで排泄できるように時間を見ながらトイレ誘導を行っている。排便も一人ひとりの状態に合わせて、腹部マッサージ等を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個人に合わせての腹部マッサージや運動をしていただいている。十分な水分補給や野菜を多く入れたメニューを入れるよう工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の業務に合わせることをしないよう、ご本人の意向に沿って声掛けを行い、入浴をしていただいている。	
			(外部評価) 毎日入りたい方や拒否される方等、利用者の希望に応じながら無理のないように入ってもらっている。シャンプー等は好みに合わせて個別に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の希望により、居室で休んで頂いたり夜間は安眠できるよう日中は、散歩やレクリエーションなどで体を動かしていただくよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬管理表を作り、薬名・効用・写真を載せどれがどの薬がすぐ分かるよう工夫している。処方箋には、必ず目を通し変更・追加等あれば、申し送りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 塗り絵・編み物・折り紙などそれぞれ得意とすることに対し、文化祭に出品したり、画集を作ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、毎日散歩に出かけている。楽しみにしている方もいる。行事予定に遠出のドライブや外食にも出かけている。	
			(外部評価) 毎日近くのスーパーに買い物に出かけたり、天候に合わせて事業所の周りを散歩している。また、季節に合わせて苺狩りやぶどう狩りに行ったり、菊花展やバラ公園、コスモス畑を見に行く等、楽しみが持てるように外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) すべての利用者がお金を所持はしていないが、お買い物をするすることで使うことの楽しみを持って頂いているまた、毎年募金をされる方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) すべての利用者が出来ているわけではないが、ちょっとした用事や連絡など時間を決めてやりとりしていただいている。毎月家族にお手紙を書かれておられる方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 朝方の太陽の眩しい時間帯には、カーテンで調節をし共用部の室温・湿度等を快適なように調整している。また、季節の花や飾り付けなどその季節感を感じていただいている。	
			(外部評価) テーブルやソファの配置を考慮し、利用者が集まってゆっくりできる環境や雰囲気をつくっている。空気清浄器を設置し、共用空間の環境にも配慮している。壁には行事の写真や季節を感じられる飾りつけがあり居心地良く穏やかに過ごす事ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用部には、一人一人の椅子や長ソファを設置し、ゆったり過ごしていただくようにしている。自由にテレビを見たり編み物などの趣味ができるような空間作りになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使っていた筆筒や飾りものなどご家族と相談して使い慣れたものをもってきていただいている。飾っていた人形などで懐かしむ方もおられる。	
			(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。好みの布団や使い慣れた物を自由に持ち込み、好みのポスターを貼ったり、家族の写真を飾る等、一人ひとりが落ち着いて過ごすことができるよう環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 共用部は、バリアフリーでご自分でトイレに行かれたり車椅子でも自分で走行できるなど障害はない。また、居室や共用部トイレなどは、分かるように名札など設置している。	